

中小企業診断士の視点 @にいがた

第70回 中小企業における「人的資本経営」のすすめ



中小企業診断士 土田 正憲
(一社)新潟県中小企業診断士協会

人的資本経営とは？

人的資本経営とは、人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる経営のあり方です。つまり、社員をコストではなく、投資対象としてみる経営手法です。

昨今、「人的資本経営」という言葉を耳にすることが増えてきました。経済産業省もその重要性を強調しており、大企業では人的資本の情報開示が義務づけられつつあります。では、中小企業にとってはどうでしょうか？

人的資本経営が中小企業に必要な理由

「うちは人が少ないから、人的資本経営なんて関係ない」と思われる方もいるかもしれません。しかし、人手不足が常態化するなかで、人材の確保・定着・育成はすべての企業に共通する課題です。中小企業だからこそ、一人ひとりの力が業績に直結します。ベテラン社員の知見、若手社員の発想、現場の工夫がすべて「見えない資産」として企業の強みになります。これらを戦略的に育て、活かすことが人的資本経営です。

経営戦略と人材戦略は車の両輪

人的資本経営を実践するうえで重要なのが、「経営戦略と人材戦略の連動」です。例えば、新たな市場へ進出する場合、そのために必要なスキルや人材をどう確保・育成するかを考える必要があります。経営戦略が「どこに向かうのか」であり、人材戦略は「どうやってそこにたどり着くか」ということになります。

第一歩は「人材の見える化」から

人的資本経営の第一歩は、「人材の見える化」から始めましょう。

- ・社員のスキル・資格の一覧化
- ・社員個々の強みやキャリア希望の把握
- ・人材教育・育成体制の棚卸し
- ・働きがいに関するアンケートの実施 など

これらの情報をもとに、人材の現状を客観的に把握し、経営戦略とのギャップを確認することで、人材戦略の方向性が見えてきます。

人が活きる会社には未来がある

人的資本経営の目的は、単に社員を評価することではなく、人を育て、活かす土壌をつくることです。「この会社で成長できる」と社員が実感できる会社は、採用力も定着率も向上し、結果的に業績向上へつながります。人的資本経営は大企業だけのものではありません。人材に目を向け、人材を戦略と結びつけることで、会社は大きく変わります。「人を育てて、会社も育つ」。その一歩を踏み出しましょう。

【問い合わせ先】

新潟県中小企業診断士協会

ホームページ：<https://nf-cmca.jp/>

電話：025-378-4021

Eメール：office@nf-cmca.jp